



D C T 通信 vol. 3



糖尿病の薬物療法について

糖尿病治療の基本は食事療法、運動療法ですが、それらを続けても血糖管理目標を達成できない場合に薬物療法を行います。

今回は2型糖尿病の薬物療法についてご紹介します。

2型糖尿病の病態と血糖降下薬の種類

2型糖尿病の病態は、**インスリン分泌不全**（インスリンの分泌が少なくなる状態）と**インスリン抵抗性**（インスリンの働きが悪くなる状態）に分かれます。

一般的に、肥満の方はインスリン抵抗性、非肥満の方はインスリン分泌不全が想定されます。

血糖降下薬の種類も効き方によって大きく3つに分けることができます。

- ・ **インスリン分泌を促す薬**

例) SU薬、速効型インスリン分泌促進薬、DPP-4阻害薬、GLP-1受容体作動薬、イメグリミン

- ・ **インスリン抵抗性を改善する（インスリンの働きを高める）薬**

例) メトホルミン、ピオグリタゾン

- ・ **糖の吸収や排泄を調節する薬**

例) α -グルコシダーゼ阻害薬、SGLT2阻害薬



上記の薬の中でも、慢性腎臓病や心不全といった合併症にも効果が期待できるものもあり、必要に応じて選択される場合があります。

基本的には病態に合わせて薬が選択されますが、年齢によっては薬の副作用が懸念される場合や、用法（薬の飲み方）が複雑で治療継続の問題が生じたり、薬の費用の問題など、患者さんの状況に応じて個別に治療法が選択されます。

糖尿病の薬物療法についてご不明な点があれば、

医師・薬剤師・看護師・糖尿病療養指導士に気軽にご相談ください。